

三十三観音ネットワーク会議発足

霊場の発展と交流の促進



田正裕住職が世話人となり、昨年の日韓合同法要並びに交流会に九州西国霊場と中国観音霊場の両霊場会が参加し、全国の霊場会も親交を深めようと発起された。

『西国三十三観音霊場

国内外の観音霊場の発展と交流の促進を目的に3日、広島市で全国12の観音霊場と賛助会員の旅行社らが出席し、『三十三観音ネットワーク会議』が立ち上げられた。同会議は、大聖院の吉

会『西国三十三観音霊場会』といった象徴的な場合』といった象徴的な霊場会に比べ、地方では程度の差こそあれ、衰退を辿っている霊場が多い。構成寺院の後継者の不在や無住の問題から、参拝者の受け入れや充分

情報を共有したいとの声も多く、『ネットワーク会議』の活動に期待を寄せた。

「大きな寺院の集まった霊場は、広告や宣伝に費用をかけることも可能だが、小さな霊場では難しい。そのため、皆で知恵を絞って、どの霊場でも取り組めるような効果的な方法を見つけていきたい」と参加者。

い」と参加者。第1回の会議では、3月3日を『33観音の日』として記念日に制定し、毎年、持ち回りで会議やお勤めを設けるといったことを決めた。また、国内に止まらず、韓国や中国の霊場とも交流を図っていききたいとの指針も掲げられている。